授業の玉手箱

「韓国の英語教育」に思う

東條　加寿子

このところ韓国の英語教育について調査している。先週は、ソウルの小、中、高や教育委員会を訪問する機会に恵まれた。韓国では小学校3年生から教科として英語が必修化されて10年以上が経つが、今回、小学校から高校までの英語の教科書を何冊か入手することができた。教職課程の学生とともに、日本の教科書との比較研究をしてみようと考えている。韓国といえば、PISA や TOEFL、TOEIC で日本はいささか水をあけられている感がある。拙速な結論は避けなければならないが、これらの成果の背景にはどのような教育があるのだろうか。

ここでは、韓国の修学能力試験（英語）と日本の大学入試センター試験（英語）の相違点を見てみたいと思う。修学能力試験は毎年 11 月に実施され、大学進学を希望する高校生は必ず受験しなければならず、毎年 58 万人近くが受験する。ちなみに、昨年のセンター試験受験者は約 55 万人。韓国と日本の人口比を勘案すると、韓国の大学進学率がいかに高いかがわかる。実際 80%に迫る数字である。修学能力試験の結果が進学先を決定するのであるから、受験生にとってはまさに一世一代の大一番である。昨年の問題をみてみると、英語は 70 分の試験時間で全 50 問、そのうちの 17 問がリスニング問題で、以下のようないくつかの興味深い特徴がある。

1) 昨年の修学能力試験（英語）の総使用単語数は 5,500 語前後で、昨年のセンター試験（英語）の総使用単語数の 4,000 語程度を上回っている。試験時間は、韓国 70 分、日本 80 分であるから、韓国の方が英文の分量がかなり多いことになる。
2) 筆記試験で会話文の出題はない。会話はすべてリスニング問題として問われており、扱われる会話も長く、10 ～ 12 回の turn-taking がある会話が用いられている。会話シーンは、ショッピング、旅行計画、学生生活、図書館利用、病院、レンタル等のシーンである。
3) 発音問題、作文問題はない。
4) 筆記試験では、100 ～ 200 語の英文パラグラフについて、内容理解、空欄補充、並べ替え等が出題されている。驚くのは、1パラグラフ（1テーマ）1問の構成で、これが 30 問程あるわけだから、解答するためにかなりの読解力、読解スピードが求められるということ。一方、センター入試では 400 語程度のパラグラフや、650 語程度のスピーチのスクリプトなど、比較的長い英文について複数問を問う出題が見られる。修学能力試験の内容は、地球温暖化、メタボリズム、心理、技術革新、歴史、科学、スポーツ、芸術文学など、多様な学問分野を網羅するようなラインアップで、homeostasis や euphemism に関する内容も見受けられた。語彙の難易度も高い。
5) イラストや図表の利用については、イラストが用いられているリスニング問題が 2 問、表利用問題が 1 問、円グラフを読み取る問題が 1 問のみで、特にセンター試験のリスニングでイラストが多用されていることと対照的である。

これらの中で最も興味深いのは、2）と4）の相違点である。確かに、会話文を筆記試験として出題する意味はあるのか、考えさせられる。また、修学能力試験では文法やイディオムといった言語知識を文レベルで適用して答えられる問題は 1 問もなく、英語を媒体とした思考力（academic/cognitive competence）を問う出題になっていることには圧倒される。今後、このような統一試験を課す韓国の教育課程をさらに詳しく調べてみたいと思う。なお、修学能力試験の過去問題は以下のウェブ上で公開されている。

http://suneung.re.kr/board.do?page=1&boardConfigNo=62&menuNo=238&sortName=boardEtc01（例えば、2012 年外国語は 62 番「외국어」と書いてある箇所）

書籍紹介

『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』
正高信夫・辻幸夫　共著．2012. 大修館書店．798 円 246 ページ

霊長類研究者の正高信夫氏と言語学者の辻幸夫氏の対談集である本書は、ヒトの本質的な特徴である「ことば」の獲得・使用について、他の霊長類からの進化、赤ちゃんの発達過程などを引き合いに出しながら、議論が進んでいきます。さまざまな先行研究や最新の知見なども織り込まれていますが、専門的な用語については両者が適宜説明を加えるなどして、ことばに興味がある人にとっては読みやすい展開になっています。

紹介者が特に興味をひかれたのは生後 6 週間ごろから赤ちゃんが「クーイング」とよばれる特徴的な音声でコミュニケーションを取ろうとしているという指摘です。6 ケ月ごろの赤ちゃんが「喃語」とよばれる言語（と分類してよかろうと思います）を使うことは広く知られているかと思いますが、それよりも早い段階で「随意性をもった発声をするようになる」（p.59）ことは新しい学習でした。言うまでもなく、赤ちゃんの主たるコミュニケーションの相手はケアテイカーである母親である場合が多いのですが、その母親は多くの皆さんがご存じの「マザリース」と特徴づけられる言語スタイルで赤ちゃんと接します。このようなコミュニケーションが基盤となり、親和的な表現である模倣から共感（empathy）が育まれていく、という人間のユニークな特性があらためて理解できる1冊であると思います。また、本書の裏表紙にはカニクイザルのある一連の行動の写真が印刷されていますが、その行動内容も非常に興味深いので、ご自身の目で確かめられてください。

（夫　明美）

編集後記 / 第 18・19 回勉強会案内

9 月中旬、学生 6 人を連れて英国へ教職フィールドワークに 2 週間ほど赴いた。到着時はパラリンピックが閉会し、今夏の一連のオリンピックを総括するパレードが行われた日であった。翌日の新聞は Souvenir Edition（記念版）が発行され熱狂的な一日であった。Tube の優先座席には for disabled という言葉が使われているが、新聞には superhuman と言う言葉が踊っていた。"In the end, everyone of us was inspired by a month of extraordinary sport. Tom Peck considers how the Paralympics, in particular, gave the nation, a summer to remember in the form of new heroes, golden moments and perhaps, even a legacy. Superhuman efforts change attitude to Paralympic support for good."

＊＊＊第 18 回勉強会「英語の教え方教室」＊＊＊
2012（平成 24）年 10 月 20 日（土）14:00 ～ 17:00
「大阪女学院大学教職フィールドワーク課題研究発表」
今回の勉強会では、教職フィールドワーク英国に参加した学生が課題研究発表を行います。

＊＊＊第 19 回勉強会「英語の教え方教室」＊＊＊
2012（平成 24）年 11 月 17 日（土）14:00 ～ 17:00
「クイーンズランド大学での研修で学んだこと」
府立豊中高校の北村先生がクイーンズランド大学のゲストティーチャー・プログラムの研修内容を紹介。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center
540-0004　大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号
Tel: 06-6761- 9371　Fax: 06-6761-9373
Homepage: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp